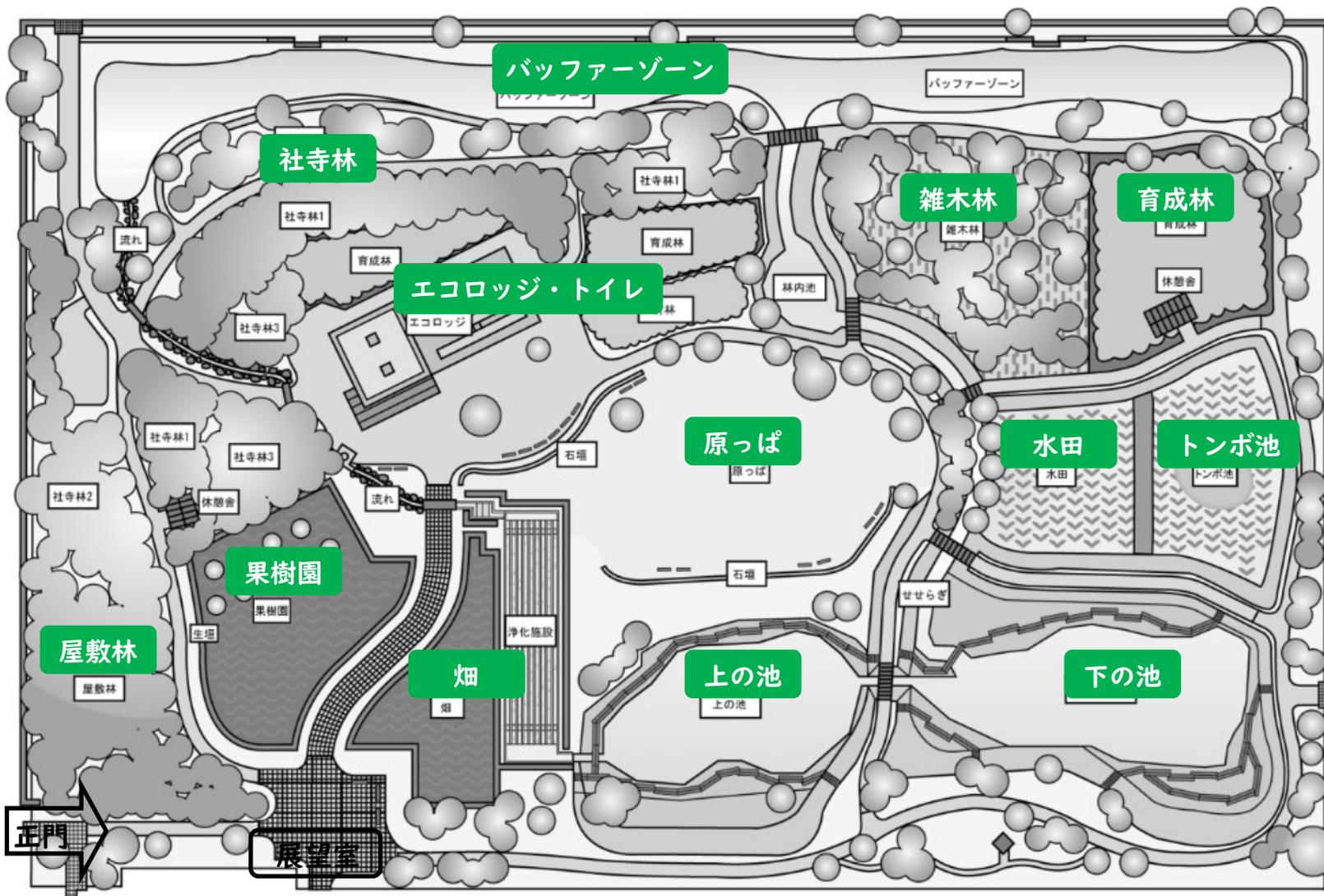


生態園マップ～2020冬編～

季節のできごと ・バッファゾーンや下の池のアシの付近では、仲良く並んでお散歩や、泳いでいる

カルガモの親子の姿がみられます。

冬は赤く熟す実が多い季節です。生態園では「ヤブコウジ」「イノバラ」「シロダモ」「クロガネモチ」「アオキ」などが見られます。



モズ



モズはムクドリくらいの大きさと、埼玉県内でも農村部などでは普通に見られます。

枝や杭などの見はり所にとまり、尾をゆっくり回しながら、見つけた昆虫や蛙などを捕獲します。獲物を小枝などに刺す習性もあり「モズの早贄」と呼ばれています。生態園のカラタチの枝でも、冬の間、時折見られます。

「百舌鳥」と書いて「もず」、いろいろな鳥の鳴き真似がとても上手です。



CESSチャンネル (Youtube)

生態園についても配信中国

ハンノキ

ハンノキは湿地や湿原などで生育する、高さ10～20mになる落葉高木です。生態園には、ハンノキがたくさん植えられています。これは、埼玉県の蝶であるミドリシジミをよぶためです。ミドリシジミの幼虫は、ハンノキの葉を食べて成長します。ハンノキは、関東地方では田んぼの境を示す目印や、収穫後のイネを干すはざ掛け用として植えられていましたが、水田や沼地が減ったことで、ハンノキも減り、ミドリシジミの数も少なくなってしまいました。

ハンノキは、寒い冬の間には花を咲かせます。だらりとさがった雄花の花粉が雌花に運ばれ、次の年の秋に小さい松ぼっくりのような実（果穂）ができ、種を落とします。

※2020年の春、長年の努力が実を結んだのか、生態園で「ミドリシジミ」が飛んでいるのを確認できました！2021年の春、多くの「ミドリシジミ」を期待します。



初夏から夏の頃



秋
ハンノキの雄花



冬



雌雄同株。雌花は雄花のすぐ下に付き、早春に開花



12～1月頃
果穂は木質化して翌年まで残る



1月下旬～2月頃
枝の先端に下垂する雄花



埼玉県の蝶
「ミドリシジミ」

たくさんのカモ

冬になると、生態園にはたくさんのカモがやってきます。一番多いのはカルガモですが、よく観察すると、マガモやヨシガモが混じり込んでいることもあります。

カルガモ



冬になると、一番多く見かけるカモです。雌雄同色。全身褐色で、白っぽい顔をしています。くちばしは黒く、先は黄色。目と頬の部分に黒い線があるのも特徴です。

マガモの雄（オス）



雄の頭部は緑色の金属光沢、くちばしは黄色で、成鳥の雄の頸には、白い頸輪があります。雌は全体的に褐色です。
マガモは、飼育されているアヒル、アイガモの原種です。

ヨシガモの雄（オス）



雄の頭部は赤褐色から緑に見える、くちばしは黒、喉から頸の上部は白く、黒い頸輪があります。また、黒くて長い風切羽も特徴の一つです。雌は雄と比べると、とても地味で全身褐色です。